



第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日

講師 佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日

講師 久米えみさん ながのクラッセ会長
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日

講師 鷺沢幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日

講師 清水隆史さん フォトグラファーほか
常盤昭二さん CMディレクター

わいがやサロンスペシャル
スポーツによるコミュニティ再生 平成19年2月22日
講師 二宮 清純さん スポーツジャーナリスト

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師 虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり
ばていお大門・ToiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師 竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師 木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師 荻原健司さん 参議院議員・五輪メダリスト

第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/
「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師 松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ピオトープ」/
長野市をピオトープネットワークシティに 平成19年11月14日
講師 松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

わいがやサロンスペシャル
長野・考/長野の明日を話そう 平成20年2月14日
講師 中馬清福さん 信濃毎日新聞主筆

第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師 浜このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師 角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれ
—変化に対して前向きになることの大切さ— 平成20年8月19日
講師 針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師 水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野バルセイロー 優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師 バドウ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師 町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師 中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践
—宇田のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みる— 平成21年6月3日
講師 塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師 小出陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

第20回 信州の伝統から生まれる食文化
—漬物の新しい風— 平成21年9月2日
講師 宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋

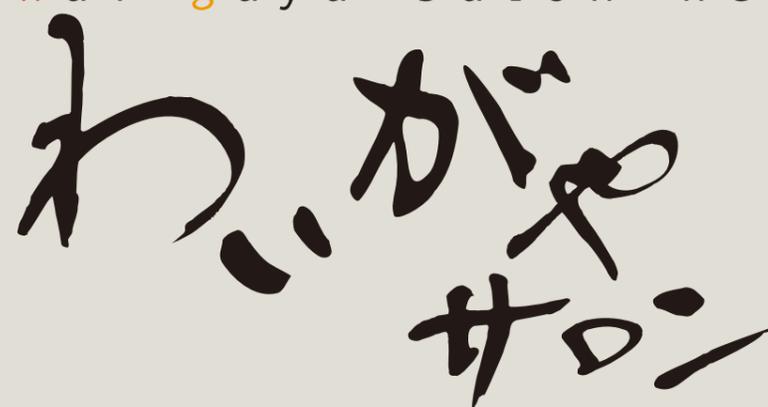
第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
講師 志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっころしょ/代表理事



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail: nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 22
2010.4



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

第22回 JFL昇格に向けて

平成21年3月17日(水) 18:00~20:00

講師／薩川了洋さん AC長野パルセイロ新監督

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911



薩川了洋(さつかわ のりひろ) 1972生まれ、静岡県出身。清水商業高校で小野、川口らと走る。ジャンプ力とスピードのあるDFとして全日空クラブ、横浜フリューゲルス、柏レイソルで活躍。現役時代は「半袖仕事人」の異名。その後、柏レのコーチ。08-09シーズン、柏レから出向というかたちでAC長野パのコーチ。今シーズン、バドゥ・ピエイラ監督の後を受けて監督に就く



AC長野パルセイロ2010シーズン・メンバー。選手22人中、8人が新規加入

薩川：小学生選抜チームからブラジル遠征や韓国遠征がありましたから親の財布は大変。一時、親から「やめてくれないか」と頭を下げられた。「いいよ」と答えたら、サッカーの先生が「やめさせないでくれ」と親に頼みこんで、それで今日まで続けてこれたんです。

鷺澤：プロになったのはスカウト？

薩川：いや、清水商業高校の同学年にスーパー高校生といわれた名波浩と山田隆裕がいて、全日空クラブが二人セットでとろうとしていたところが名波は順天堂大学、山田はマリノスに入ることに決まってしまった。自分も大学に行こうかとも思ったが「卒業できるか？」と言われてヤメ(笑)、高校の先生があいた全日空枠に「どうだ？」と声をかけてくれて、そうすることにしたんです。

Jリーグ

薩川：入団する時、加茂周監督(後に日本代表監督)が「グラウンドにはいっぱいお金が落ちているから自分で拾いなさい」と言われた。たくさん拾えてよかった。(会場、笑)

鷺澤：Jリーグ誕生が決まっていたころですね。あのころは日本経済がバブル期に差し掛かっていたとき。

薩川：新人の契約金も野球よりサッカーのほうが高かったくらい。

鷺澤：当時、華やかでしたよね。全日空・横浜フリューゲルスに8年在籍。そしてバブルがはじけた。

薩川：ええ、今JALが大問題になっていますが、当時ゼネコンが次々バンクして、うちのチームもその波をかぶったんです。選手に

2010年初めてのわいがやサロンはAC長野パルセイロの新監督に就任した薩川了洋さんをお招きしました。北信越フットボールリーグシリーズの初戦は4/11、JFL昇格に向けた熱い思いをお聞きました。進行役はアスレながの事務局長・鷺沢幸一さんです。

小さいときからずっとボール・タッチ

鷺澤：薩川さんは、どんな子どもだったのですか？

薩川：海と山と川に囲まれた静岡県清水市(現・静岡市)生まれで、小さいときから足が速く、小学生から市で一番でした。清水市はサッカーが盛んで、僕が始めたのは幼稚園、朝早く行って送迎バスの運転手さんとボールを触っていました。家のすぐそばにナイトグラウンドがあったので、朝から夜までボール・タッチ、常にサッカーが出来る環境にありました。去年、県代表になった松商高校が5-0とか4-1で相手チームにやられるのを見て、環境差があると思いましたね。

長野に来て驚いたのはサッカー・ショップがないこと。清水には個人商店のサッカー・ショップがたくさんあって、セールするときにはお父さんお母さんが行列を作る。

鷺澤：親たちの情熱も地元チームが強くなる原動力になりますよね。

は全然知らされてなくて、当日に紙切れ1枚でしたね。消滅が決まってから天皇杯の予選が始まって、あのときのあんな強いチームは二度とない。あれこそ「チーム一丸となって」で、負ける気がしなかったですから。

鷺澤：実際、勝ち続けて決勝戦は清水エスパルス。決勝戦の感想は？

薩川：僕、出ていない。

鷺澤：ソレを言って欲しかったんです。(会場、笑)

薩川：外国人はエルボーを入れてくるんですよ。それでこちらもレフリーの見えないところで挑発したら大画面に映っていた。で、退場。決勝はベンチの横で見ていた。

鷺澤：この場面は今もユーチューブで見れます。戦った相手で一番印象に残っている選手は？

薩川：浦和レッズのエメルソン(ブラジル出身)ですね。カズさん(三浦知良)を凄いと思ったことはないが彼は凄い。足の速さで売っている自分とお互いに前を向いて走って抜かれてしまう。ではどうやって止めるか？ 考えて考えて、背の高い選手も低い者もヘディングの落下点は同じだと気付いた。結果、「エメルソンを止めたのはお前しかいない」と、柏に引っ張ってもらった。

Go to Jの年

鷺澤：バドゥ監督がいつも言っていた「考えなさい」を地でいく薩川さんが2年前パルセイロに来てくれました。実は薩川さんは先ほどのエピソードははじめレッドカードの多い選手として知られていまして(笑)、当時のパルセイロの悩みはレッドCが多いこと(会場、笑)。招聘にはレッドC体験値の豊富さもあった(!?)。バドゥの感想は？

薩川：まず、いい人。お父さんのよう。選手を可愛がる。やさしいけれど選手を見る眼は鋭かった。08-09の反省を込めて言わせてもらうと、監督が「考えなさい」と教えたことは間違っていないが、パルセイロの選手たちは、そう言われても何を考えたらいいか分からないレベル。反復で体が覚えるしかない。そのためにはダイレクトに試合を実感することしかない。

会場：去年は3回応援に行ったのですが、確実に決められそうなところなのに、決めてくれないという場面がよくあった。選手に決断力がない。

薩川：そこが上にいる選手との違い。僕は(去年もですが)選手たちに上に行ったときに、そこで通用するサッカーでなければいけないと教えている。山雅は上で通用するか？ そうは思わない。山雅は「蹴る」サッカーだからだ。

鷺澤：山雅は強力な選手がいて中盤を省略している。

薩川：僕が選手に身に付けさせるのは「つなげる」サッカーです。

会場：イースタンリーグの試合数を増やせないか？ 実戦の緊張感の中でしか成長しないと思うのだが。

鷺澤：試合数を多くしたいが、これが限界。上に上がって試合数を増やしたい。

薩川：このチームのよいところは上に上がるという明確な目標があること。J2とやってそこそこ勝ってしまうのがまずい。今年はどこかでポコポコやられて、本気を出さなければ勝てないということをもって知ったほうがいい。※選手紹介あり

会場：彼らはなぜパルセイロを選んだのか？

薩川：彼らが選んだのではなく、僕が全部選びました。彼らの精神力は分からないが、去年は高さが足りなかったため体の強さ、足の速さを見た。「走らない奴は絶対使わない」ということを選手に知らしめるつもり。選手を切る、あるいは循環させることによって常に競争意識が生まれる。今年は伸びしろが十分ある。成長してほしい。

鷺澤：皆さん、ぜひ南長野総合競技場に足を運んでください。

薩川：応援よろしく願います！ 苦情は僕に。

今回は監督の“ざつぱらんに”という要望で飲みながら語る方式。監督の生の声、飾らない人柄に接し、終了後の個人サポーター勧誘への申し込み多数でした。



「走るサッカー、つなげるサッカーを徹底させます。練習でも試合でも、走ってないところを見たら声上げてください」(監督)



お話をお聞きして

清水と長野が決定的に違うのは海がないこと、だけではありませんが、その清水が育んだ監督の気風(きつぶ)のよさをぜひパルセイロに吹き込んでください！4/11はみんなで応援に行きましょう！(M)